

2012.7

6月27日 早稲田大学にて「センスオブアースの活動はアフターケアではなく、問題を未然に防ぐためのものだと思った。」「この団体はすごいな。」「楽しみながら、命に触れさせる授業に、なるほど!」「子どもが感じることを中心に据えた指針に共感した。」「非常に具体的でわかりやすい授業が多く魅力的。」「実際に活動している子どもの反応、感じ方を生で見たいと思った。」

生涯学習論「NPO・NGOとボランティア」  
田中雅文先生の授業にゲストティーチャーとして参加しました。

早稲田大学の教育学部で、NPOの実践報告を行いました。以下は授業を受けた学生のメッセージです。

- 非常に具体的でなおかつ分かりやすい環境の授業が多く、魅力的だった。大学生が活動に参加することでよくなったという話も聞き、とても興味を持った。
- 教育といえば、理屈や論理から考えて思っていました。五感を通して学ぶということに魅力を感じました。小さいころに感じたものを、今ならどう感じるのか、そのようなきっかけ1つでも何か自分が変わるんじゃないか、そう思いました。

(2ページ上へ続く)

## みそづくり

「大豆とこうじをつぶしてまるめてバケツに投げ入ました!」  
「ぼくはいっぱいかつやくしました。」

上板橋小 6年5組・3年  
—合同交流授業で 6月15日

—昨年に続き、おいしい上板小産みそづくりに、5組さん、3年生の合同で、家庭科室いっぱい広がって、取り組みました。2時間であっという間に仕込み、完成です。子どもたちはどの子も真剣で、楽しんで作り、2回目の5組さんは集中力を切らしません。素晴らしい作業風景でした。

(2ページ下へ続く)

(▶1ページ上から続き)

●命の大切さを子どもたちへ伝えようという主張自体はとも大事であると同時によくある主張しやすいテーマであるが、代表の方のその主張に行きついた経過に真摯さを感じとても納得した。黒板とチョークを使った授業だけではだめだと言う言葉にはとした。

●普段の授業では得られることのできない活動があると思ひ、環境を生かした活動で大変良い。感動を得られる授業、このような環境プログラムに自分も貢献できたらしいと思う。

●こういう五感を使った授業は、まさに生涯学習を形成し、維持していくうえで大事とされていることを実践していると思った。学校の方へ訪問する活動に参加してみたいなあと感じた。

●私はボランティアの見方が変わりました。今までは「他人のため」という視点でしか考えていませんでしたが今は、「大人の生きがい、自分のため」というふうに考えるようになりました。実際に活動している方々のお話を聞くとボランティアをしたくなるなあと感じました。

●「食べ物はどこから」というプログラムに注目しました。この授業では、ただ楽しんで活動するだけでなく、日本の食料問題、さらには地球温暖化という現在日本が抱える大きな問題について気付くことができる。こうした活動が子ども達のビジョンを広げていくのだと言うことに、感動しました。

(たくさんのメッセージのうち一部抜粋)



最後に「わたしたちは、これから、まず、自分たちが、自然と共に楽しむことを大切にする、そうすることで人にその楽しさを伝えることができる。多くの人に、環境学習から受ける感動、心地よさ、感性を磨く場面を提供していきたい。」と伝えました。学生たちの意欲は素晴らしく、この授業をきっかけに、新たな学生たちと、同時代を生きる者として、活動の協働、交流がはじまっています。



(▶1ページ下から みそづくり続き)

5組さんは、とても落ち着いて、活動していました。

### みんなの感想◎(5組6年)

☆大豆をふくろに入れて大豆をつぶしました。ふみおわったらつぎはしおとこうじを入れました。入れたらこねました。こね終わったら丸めました。丸め終わったら、大きなかごに入れました。これがさいごのみそづくり。たのしかったです。

☆ぼくが一番がんばったところはみそをぎゅうぎゅうとするところです。そしてみそをバケツの中に、ポイと入れるところは最初はしっばいしたけれど、2回目はしっかり入れることができました。

☆気付いたのはみそ汁です。みそ汁は、5組でつくって食べていたので、「みそを味わって食べます。」(代表)と言葉で言いました。みんなはうれしそうにはく手をしてくれたと思います。すごくとってもうれしくなりました。6年生たちは洗い物をしました。ふくのもがんばりました。みんなで楽しい思い出で一日を過ごしました。





こうじとつぶした大豆を混ぜ合わせる。

### みんなの感想◎(3年)

☆意外とつくるこうじが少ない。みそを半年以上ほっとくことを初めて知っておどろいた。大豆をふむと気持ちよくて楽しかった。これから大豆で、できたものを食べてじゃぶなからだをつくる。

☆足でつぶすのは楽しい。手でつぶすのが楽しい。大豆をもっと食べる。

☆大豆のお豆をあしてふむなんておもしろかった。大豆でもむのが楽しかった。大豆を使ってみそをつくるってのはじめてきた。

☆みそって、たったの3このざいりょうでできるなんて、びっくりした。

☆つぶただけで茶色になったから、すごい。ほくはひじきが好きで大豆がはいっているから、もっと、食べようと思った。

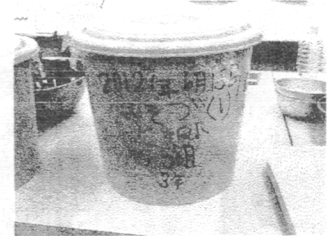
☆みそをこうやって作るなんて楽しいなあ。なっとうをいっぱい食べていたので、ガンになりにくいと思いました。好き嫌いしないで大豆を食べたいと思います。

☆なんで塩とこうじを入れるんだろう。なんで大豆を足でふむんだろう。大豆ってガンにもいいんだな。大豆ってすごい。

☆お豆って、一日もかけて煮るなんて知らなかったです。

☆私はみその作り方を知って、自分でつくってみたいです。

☆なんで、こうじと大豆をまぜるのかな。みんなできょうりよくして大豆とこうじをもむのが楽しかったです。



### 先生方の感想

◎誰一人として途中で興味や意欲を欠くことなく取組んでいた。難しすぎず、やさしすぎず、また、半年後にできたお味噌をいただけると言う楽しみもあり、中学年の子どもたちに適している。環境教育を授業で取り上げていくには、まだまだ教職員側の知識や教材研究、開発が足りないと思う。

◎大豆やこうじのにおいをかぐのが新鮮だったようだ。足で踏む感触の変化に気付き、友達に伝えていた。高学年にとってはスライドショーで詳しく知ることができた。低学年にとっては、実際にさわって、取り組んで知ることができた。子どもたちはみそづくりを体験出来るととても喜んでいて、準備、片づけ、ご指導本当にありがとうございました。

◎興味を持って積極的に参加する児童の姿が多く見られた。豆をつぶした時のにおいなど、初めての経験を多くさせていただいた。子ども達だけでなく教員もとても楽しく参加させていただきました。



3年担任福本先生



五組担任松山先生(右)とボランティアスタッフ井上さん



若木保育園・5歳児キリン組 6月6日

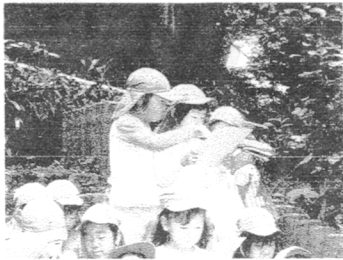
「いろんな虫を探して楽しかった。」「はっばのうらふわふわ、表がつるつるしていた」「鳥の声がキイキイきれいだった!」「カナブン・アゲハチョウを捕まえた」「生きもののおうち〜くものす」

「いもむしのたからぶくろ」で楽しみました。

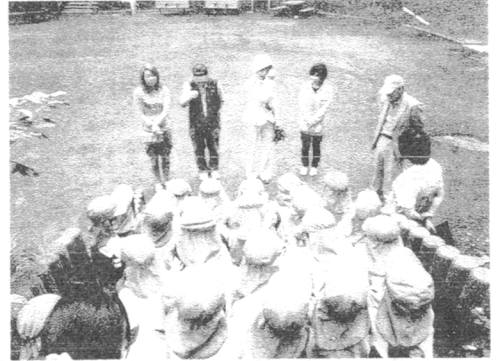


生き物の巣を熱心に観察している子どもたちと小鹿園長先生

延期された日は雨も中休み。子どもたちは梅雨空なんて、吹き飛ばす勢いで、西台公園の広場に行きました。このあたりは前からたぬきも生息し、ランなどが自生していて、生態系が豊かです。そこには、長い50m以上のお滑り台があって、みんなで、そこから滑り降りると気分爽快。保護者も3~4人、飛び入り参加。円型のドーム状の道を小鹿園長先生を先頭に、キロリのおにごっこで走り回りました。それから、いもむしの宝袋で、たんけんたいをつくり、3人組みで仲良く自然探検。発表時間になると、一人ひとりの子どもが、お気に入りのたからものを発表したのと、お話を聞く態度が実にすばらしく、驚きました。



公園内の丁度良い階段で保護者もあいさつ



★ドングリを見つけて楽しかった。★クジャクみたいな葉っぱを見つけたよ。★はっばがよかった。★くもの巣をみつけた。★ダンゴムシのすみかを見つけてうれしかった。★はっばを拾うのが楽しかった。★生きもののお家を見つけた。★木にさわったら、ざらざらしていた。など

《宮澤勝江先生の感想》

子どもたちの期待が大きく楽しく参加出来ていた。説明に興味を持ちよく聞いていたの で、理解することができ、子どもの大好きな虫の話で親しみを持ち活動できた。関わりを持ってほしいとの願いから組んだグループであったが、協力し合う姿が見られ、その後の友だち関係にも良い影響が出ている。この後、虫を捕まえて遊んだり、観察したりすると、「また、遊ぼうね」とことばをかえしているのを見て、今回の経験で子どもなりに何かを感じ取ったということを感じています。公園へ行くとつい「体を動かして遊びましょう!」になってしまいがちだが、今回のように、自然を感じながら、心と体をたくさん動かして遊ぶ方法もあるのだと改めて感じました。「また、探検がしたい。!」と子どもたち。

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052  
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp